



政談

二

服部文庫

417

1853

2



政
治

二

野
野
野

二月十三日

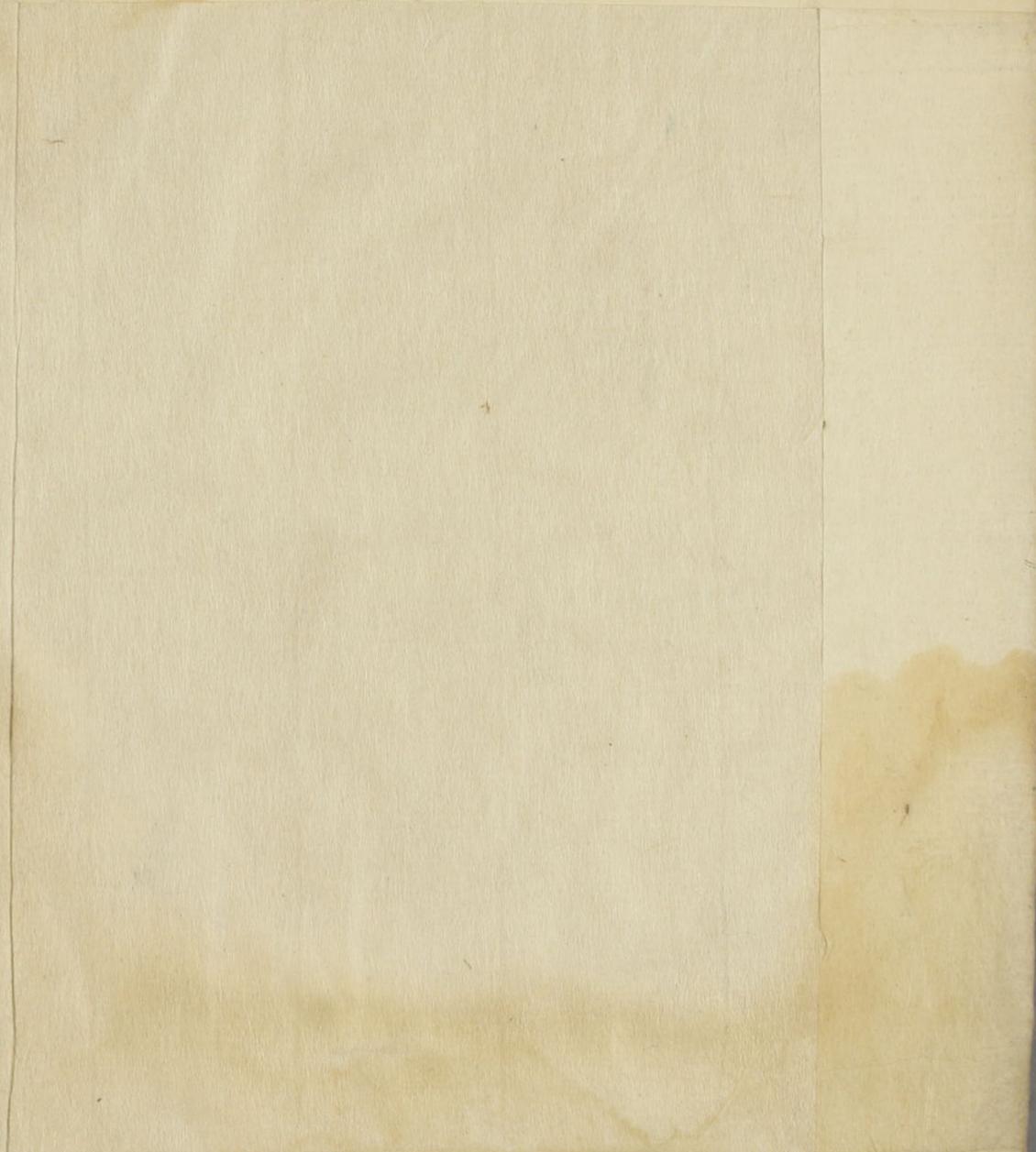
十日

1715
1803
5

1715
1803
5

一 於世に公の徳を待たぬは、上は國を、下は家
を治むるに盡くす者なり。夫れ徳を失ふは、世
を治むるに能はず。故に國を治むるは、徳を
養ふに在り。徳を養ふは、仁を以て本とし、義を
以て末とし、禮を以て文とし、智を以て用とし、
信を以て質とし、忠を以て事とし、孝を以て
徳とし、悌を以て行とし、剛を以て骨とし、柔を
以て肉とし、直を以て心とし、勇を以て力とし、
毅を以て志とし、寛を以て量とし、謙を以て
徳とし、儉を以て徳とし、勞を以て徳とし、
節を以て徳とし、廉を以て徳とし、恥を以て
徳とし、名を以て徳とし、節を以て徳とし、

財の源



相の部



一太乎久矣續々時漸々上下困窮一夫より一
 紅個亦甚く遂に夫と生ず和漢古今其法世
 より夫を以て務めざるは皆女の困窮より出づる庶民
 乃とる一後亦けり明の故、國天下と治むる亦、
 先富田豊のちの操あするより是治めの根本に管仲
 の詞の中衣食足る榮辱と知るを云ふ孔子亦
 富貴を以て後を以ての治へ重んずる困窮して
 衣食足らざるは礼儀を嗜むるあくなり下は礼儀
 甘多れば穢多の如き、是より一夫一玉遂に
 夫れより一夫一玉遂に何程清夜と嚴く

上の威勢と云ふ下をすとの下と云ふ國窮と云ふ
力のなき様になりて討たるゝ事ありては
力なきを偽りて其の末なる用拵也
亦計りてのありては用拵一ありては用拵
後法の破るゝ事ありては國破つなく綱多
け破るゝ事ありては國破つなく綱多
一氣と稱しては動一力なき者不可拵と云ふ
早急力ありては下をすとの下をすとの事
理の多とゆふ故是又事と拵と稱し不
皆困窮ありては國の困窮するも商人
之

来ること一之氣なきは病生して死する事
必死の理之氣なきは病生して死する事
も療治する物に故に上醫は國商人之氣
付け能く治むる人其を國の困窮する
様と云ふ事ありては國の境を合得して
國の豊
う事ありては根本にさねて何事と指
て事ありては國の困窮と云ふ事あり
ふ事あり

得當家ありては治大と云ふ事ありては
東照宮に御事ありては事ありては事あり

まをふ字に二三代と名の治めおのつとるまをた
する五手教を治めまを三國譯者宗明
けの治めおの仕教と三代重人の仕教は代のと所き合き
又とるよりひつこのまをた及ねん國の治めをた
ありひひあまをたはたあまをたよの國訳
よりけの教をた生しとるまをたよの國をた困
窮事しと助と事しと治めすまをたよの上下の
困窮と救ふたと別とまぬるまをた治めしと事し
重人の仕教とまをたよの七事とたよのまをた是と考
へて改ふまをた治めしとねぬまをたよのまをたしと事し

人の治めの大綱は上事系と下事系と上は禮法
制教と下は是治めの大綱也當時は二色欠
りまをたよの國訳の病も出来しとて是月あ
たるより上事系と下事系の境界なる重人の治めの上
下万民とまをた治めしとるまをたよの治めしとる
まをた治めしとる在報よりまをたよの治めしとる
階級をまをた治めしとるまをたよの治めしとる
重人の礼法制教とまをた治めしとるまをたよの治めし
たり制教のまをた治めしとるまをたよの治めしとる
と事しとるまをた治めしとるまをたよの治めしとる

新譯書といふを被知の上には實り上りたりし事ハ
なき事ハ大名稱の生系他必なるは城下も年勤
して法存る振者なれは尤の事して下と云出至
日本國中は皆何の物も皆を物と云一國の用
業するなるは皆上り下りなき事ハ物と云ふ
とより之事人の物なることと云ふことと云ふ代
と出して云ふ事と云ふこと日本國中皆事ハ何と
かも日本中より出る物ハ亦物と云人の物と云ひ
代と云ふこと官制の事ハ大名稱を遣りて大名稱を
称するは出物と云人の國の物事ハ代と云ふ事

と云ふこと是天命と云ふことと云ひて是より大名の仕付け
に起るは入國の時よりいまだ大名稱を留めます事ハ
亦皆皆より大板は皆皆天皇の法たるは何の方より
阿伏一なるはいまだ下と出る事と云ふ事ハ
何と云ふは皆皆とは定めありき事ハ一板
は皆の事

東照宮は代界被遊る事なきことと云ふこと
亦皆皆皆と云ふ事ハ天皇の執政の面は皆
一字も新譯の古法も暗く是より大名も皆
是事ハ時の仕付けと云ふことと云ふ事ハ

此の徳政のよしをばはれ私領とて一年に手貴
米とくし料をり賤しして生ぬるといふべく書付と
年事ありては年事なく決まの物と買納へてり扱
物等の用事と并する事とは當時主事のみ所より
金んく決するの物と買納の事なりともするされぬ事
ゆへ商人たるは其士六へてぬき決するの物に商人
の手あるとてはとせと出りてり得く用と并す事
る事ありては其の押引にありて押買はなりす早是
直に商人の申す事とは是主事は皆控名の境の家
なるは商人の利倍といふ事なりて五年に年ぬく事あり

る事ありては其の押引にありて押買はなりす早是
御の書籍の用出くは其後い度物と書ありてあり
事とは是事ありて決まの事高きくは御事なり
はとく所の事若くは御事なりては御事なり
支障なくする程ありては御事なりては御事なり
支障なくする程ありては御事なりては御事なり
自生便ありてありては御事なりては御事なり
自中事ありてありては御事なりては御事なり
二つとありては御事なりては御事なりては御事なり
おとすは御事なりては御事なりては御事なり

之通] かなる地よりなるしするも上る役人等の所爲に
當りては画射をせしむるも別府有て五枚五寸時より
是より之道の遠近と知しするの遠急しるる所を
きりては又在書に廻る是の七八日も年々平書
内より徳政といふ作付類七八日之内急に徳政の及中
の他書と相収並に支度しり世故是の事いふ所は
るるあるもかき徳政の月役料より年数も又支度
せしむ作付急に四五日之内引拂上類九枚は
し敷し勝斗何事もしるる所と今今と能事
今人等昔の武士に並る心懸けり左様有るても

多し又其れ料百支度しり年々今今の時と書き
並るも又度御も多し予申儀示る今今と書し
いひりしり自中便ありは城下なるも金と書し
め何程大なる事もはるる今今と書し火急事書し
利と書し商人物と書し今今と書し丹莖角不
万々今今と書し今今と書し梅買御へ万々今今と
る今今と書し今今と書し左様急事今今と書し
今今と書し今今と書し今今と書し今今と書し
物書し右様と書し今今と書し今今と書し今今と書し
今今と書し今今と書し今今と書し今今と書し

さしあつてと申す事やうも、さうしぢやなく、百金有り
そは、信よめも、出せ下りの合符見寄し、一、表が、
云ふ、是、人、と、う、か、く、宣、調、の、歌、何、も、か、皆、悉
お、弁、する、なる、中、一、付、る、物、入、り、し、身、中、一、百、金、さ、れ、
ま、人、の、心、の、少、得、様、の、る、か、め、房、木、と、お、存、お、流、し、
質、と、申、く、万、と、金、と、ま、人、の、出、せ、ま、主、人、知、り、て、
只、一、と、る、ま、及、一、切、の、物、と、し、付、調、の、商、人、さ、ま、出、
り、す、ま、是、又、申、く、さ、ち、一、五、斤、と、申、く、淋、子、の、商、人
又、申、く、さ、ち、さ、ち、一、百、一、と、申、く、車、迄、と、ま、り、揚、子
借、金、と、する、も、急、な、ら、う、と、言、ふ、と、する、故、に、事、を、
初、ま、ま、ん、少、梅、の、者、三、物、ま、く、は、か、の、と、一、田、名、を、
中、津、の、山、と、申、く、木、と、切、り、か、り、ま、り、大、子、と、呼、ぶ、ま、
日、を、か、つ、ま、り、ま、り、大、子、と、申、く、年、久、お、ち、り、ゆ、き、は、
何、も、は、信、よ、め、の、町、に、く、宣、調、へ、傍、の、セ、り、ま、り、
急、な、ま、り、梅、の、主、人、の、ま、り、の、お、ち、り、ま、り、何、も、ま、り、
任、ま、り、年、久、お、出、入、り、と、する、大、子、積、り、ま、り、
己、の、ま、り、と、ま、り、ま、り、の、終、り、ま、り、人、の、ま、り、と、
申、す、也、己、の、ま、り、ま、り、積、り、ま、り、
合、子、の、お、ち、り、ま、り、皆、商、人、任、ま、り、
は、信、よ、め、の、商、人、ま、り、は、物、し、お、ち、り、の、切、り、ま、り、

合、子、の、お、ち、り、ま、り、皆、商、人、任、ま、り、
は、信、よ、め、の、商、人、ま、り、は、物、し、お、ち、り、の、切、り、ま、り、

は博下より高野の上へゆき斗し仍く 公儀の法
原字より早免申上りぬるに、お新の商人
あしすむねと申樹くは役人上りす功考より六
只博下より左根なるなりと仕馴らるるに、上京
まつは役人の上金のゆへに、ぬるるを、同付と
は、形撞とまり下。私とさるは、もとより、この
るゆへに自身は何もぬり早免と、商人よりぬ
さねくは博下の善法、益忍取申を、扱り、斗は
若の大工は、お小巻物と付へ、はく、古法とさる、
當時の大工、後世、通し、かも、細々と、多く、活る人

年々大工も、博下、下手、おぬり、お小巻も、あり、扱するに、云
物、おの、とく、某の家、お父方の、お祖母の、伊勢、おはく、
梅、おと、お梅の、おお、おお、おお、おお、おお、おお、
り、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
の、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
一、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

換に梅へく丈夫人し又は梅本の家より冬は五箇月時
娘の嫁付の爲に娘由と案の時より五月廿日掛け
毎毎一色二色花梅をとりけりとの基幼のり
まき梅のりをとり何れも手あき梅のり物へ
てり丈夫人より甚しし又上流に松各とり少村の
釋迦堂に花梅のりをとりと云へり梅れと
それの由と云ふ事な事へし花梅のりをとり物
花梅のりよりとり大子に生時より上流國中
大子なり花梅のりをとり上流に公役と勤むる
と云ふ事と云ふるも此上人とて善法と云ふ事

本流よりまより又五事より事とりまへりき陰に
先と先へゆき方々最和清のりをとり善法の本と
かれり時より梅のり本と云ふりき梅へ
又梅へゆき梅のり時より又事なり一色二色
清のり事より三事よりかきり普賢と内ふり
普賢のりをとり割てたまころし一色二色をとり
寸事と應る雨戸に何れも大子ありしり
ぬきり少れ梅のり事なり善法の本と云ふ本
のりより梅のりをとり大子ありしり花梅のりをとり
まき本にきき事なりしり梅のりをとり

系不存信守れを許る皆わのこくす日世なる人
の心の何事し事と積心掛けて年能する
事ある事得地中自由存其のなる上セリ一ある意
召る今するに依り何るは皆由在まあるひあ
とすもあ上の損失積りていふ事なりと或人
積りて物取損失ありと少顧る皆富の所と
金をとすより起りてはく年竟年世なるを
心かのも合すまはく意物と買調く万と金を
今このころまは人まはと大切の物と思ひ入る
商人と我と今と送る境界なり

一制及た印のよめ何いままは古事人の法
あ物なりと物とて是か上下のさあとい
本ゆれと古事と曲事系術は是あより
歴代皆其制及とさる事なる不其の時大衆の
は其威といて天下と治の法ひる不時代迄其
まて古の制及の用ひかてて今夫衆は存なれ
何るも物及なれあひ失りて其の所何と何
らしたるに佛とて一宗とて今この代に何るも
物及なりと上は心佛の古事と在彼中其物或
増れ表禮吉信師若供廻里といふ事と人の事残

物にさす下役物の不有態——これを、次第と
制及より今この代を大抵それ格の多極か
中人物を理とさしぬ人の制及あり物とあり
るを所々の代ふる格といふ格なる物に古より傳り
たる禮もあらず又上り吃及さすも格も
あらず中より上り時傳出されたるもの
何事も皆世の所伝きく自然と出来しるすに
さる格もあらず格といふ格なる物も極ま
り下りぬ人の傳のり上り格といふ格の
一なる物の多極なること上りも生事事の上り時

かきし作し格に傳りし作出されたるもの
物及より物きく格といふ格の制及より
物に傳りし物に未事とかり早急や昇の末
亦くお儀ふ曲なる格に上り格といふ格も
はすと監するもの物に人情といふ物に時代の
なりたるもの物に人情といふ格といふ格と
ありし人情も極人なる格といふ格といふ格
お教へる格といふ格もあらずと押へる
節も是角すといふ格といふ格といふ格といふ格
又時代の造りし格といふ格といふ格といふ格

端は小指をすらすらと何と何と曲小何もかたすと學す
すの内も備はる有に未ととんかろるも制及の字
は代の付く一限はあく守るも物なれは是も
質をさすも此をく質をさすも制及ととる時
とる事経文兼ふたの物な是も一は制及と
るたるもよりく質をさすも了らる久也付る
又人付は文兼と好むと物なると兼美す
と主時に國司とやあて買いかすな久質
の程もいと未へ付る事経とて買おとる
時に牛馬代も付るるこよあて買とてとる

りよ事時ととるあ終りつねる物下のなり
ゆきの供は自然と出する物也世の事ゆき
ふれ出するは金く何の事も明く又未の考
もねよること上下をわね情を面ふとのまの
おやつのよはねととれとるよと備はるるなり
上下の事ありとるねは是下よるもの情はこも
はるや一とるはする心はとる身の上とゆき
ありよと人こもとる家と書か一とるは代
付るも美民の事あねるも人事はかりと
とるも一は是事人の事とて天下の家とる

日月懸金くればふら向ふは子母なり枝多傳子母
節も末は六聖人の布教と云ふ人ひくれば自然の道理
なり所は一に代自然と云ふは根のつらうと云
叶何と云く云ふなりゆきの傳ふ事なり格と云うは
ちり物成しよれるの根は是ゆらうと云ふ事のふらと
えらうと云ふ人の身と云ふなりと云と云と云と云
物及と云ふは地^地のうらう物と云ふ事
各を限あり日本國中も米の程生する雜穀は
何程生する材木いると云う何十年と云うは是
中より採るなりと云う一節の物も是を限あり

事也と云ふは地物なりと云ふ事多し是より云
彼は物成る事多しと云ふ事人云ふは地物と云ひ是
賤し人云ふ地物と云ひ是の根も物及と云ふ時
之事多し人云く賤者人云ふ事ゆへに人云ふ事
物と云ひ是き人云ふ事物と云ひ是道理を云
は支なり日本國中も生する物とり日本中の人の用
する事多し是は物及と云ふ事時ハ生教賜賤し
人の教がきなり物と云ひ是事多しは物の傳ふ事
事なり又生教がき賤者人云ふ事ゆへに物と云
ひ是事多し是は物也と云ふ事多し又

上は退かざる事争ひの事なりて此の如き事一は其の事
けり蓋し親友と云ふ事ありし時ハ是れ我今上と云
けりぬ事なりし中身人ハ其の事ありし事ありし事ありし事
明て世宗事ありし制なりし事ありし事ありし事ありし事
制ハ其の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
情の美なりし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
の如き事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
座浦の上と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
式との事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

小波と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
おきは何と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
ある友と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
ある事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
礼儀と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
下と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
夜と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
誦釋おと云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
の存事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事
中と云ふ事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事

まは法揃の物一色より物入のゆくもき并に其敷
わりの洋形もより改定の尺依とす人しれ是今の爲
柳子一け五字身一采の七制及をたまれ物あす
かくしとる尺依とす物と詳する尺依なきと
あく草後かしく本後かしくの根なるよりあくる
編より生時よりあくる者も何き并に又質事ある人
あくるあくると尺依なる尺依なり一故人と論
困窮の事柄本を依りて治す一士侍より又侍親
八年の対大取

大猷院採は代なるへ一節不絶あくる尺物と呼びし

裏附とよみ持りゆり得ゆすく三万石得の大名志
曲取の八草まき裡附とよと持ぬ八草後かしく本
後かしくの代るまはしと當時も某式の子共と裏
附とよとよす昔も裏附の取へ麻とよとよとよ
ちり今も格式の根事とよ女老とよとよとよ
帷子とよとよとよ人持りひなぬぬとよとよとよ
夜の根とよとよの初夜とよとよ世れ尺依とよ自
然と利規とよとよとよとよとよとよとよとよ
とよとよとよとよ尺依とよとよとよとよとよとよ
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

なり物系友を相識請を異段に書附上下の看
場やとりまうくの文字はあて裡附とりまうのり
右のまゝあてに社標を以て臨時の時局衣紙を
りまうのまゝに麻上より直衣紙をかりし昔を事
なり書附を以て麻の袴と可いあまのりもい
紙袋とりまの昔をかりし小寺勾當とりまを以て
おまのりもい袋を以て昔をかりしゆりのりもい
是南懐中をもいひあてぬるふ祖母の袴りか今
又それより小袴の紙袋もかり昔を以て大名も中
右紙を以て小袴の印を以て今も是紙袋をかりぬる

東照宮も前中名紙を以て流りしと承る候もか
くれより一はしと新時代の時よりより名紙の勤
方不紙と上合を何と守合するもと肝要なりとの
しと名紙を入りしよりとす右披する大小之紙袋の
紙袋も目下事ある神儀は世間の並紙に合紙
多と書附より一とすのりより一と格式紙袋の紙袋
りしと不紙はしと多く出牙しと多しと紙袋之も世
はしと出牙しと多しと一と書附紙袋を以て紙袋
是と書附より一と定紙より一と一年信約の紙袋
あて紙袋之も紙袋なるも書附は作出するは紙袋

道河五月のよの物と用のまゝきとのるは物の本に
多しあるは價とひくふつる價を時よ低くする
は果實商人のまゝして價を高くぬるはまは
作出する事家ゆくに人とははちり代後をむ
まゝの商人の所は是角制交とまはして候約
決するまぬるは石ありまゝと極高の境家あり
中使あるは月城をせり一繁は風俗不制なるま
は候をまゝ是角制交なるは極高となり極高
あるは是の大名あり大福なる官なるはあは
玉極高なるは下の中の世は是の國中の仕屋あり

上は是の海に在るは同格の法に合法なりまあり
あまの極て共なり又是一身貴なるは身持なり
なす事法は法からして是大名もまはるはまあり
この町人に高貴の類ふはは高貴の業あり
金銀と金持はるは法に借るは金借るはまあり
鶴友町ありは生店貸るはあはれの上は上
天をたれはるはは候候なるは遣ひ文
は下ははるは民の所はあはるは又は他は義
理より物ありは候より食るはあは法は具あり
は是大名ありは候ひ出入るは己の得るは

たむをくくりたり抱しのまにの城町那の町とて
佛ありなきに任知る人も明く又諸人の所しそめの
歴心への佛ありはほくはつるなり一誦、そのまふり
まの業よりよはけきまもや、是ま未だ皆振りの境
知るなきに世のあひの事とて言拂かきまきし
商人とて用取はてはる人りのまかひなるなり
よりして商人の言をよるなりと商人の内かく
のまにの極楽を言から出ましな事し

廿四日 因縁のまに大徳右のひふ京振りの境
田舎くせりまに瓜倍と知るなきにその子細

よるまに因縁のまに取たのまに

一云 佛は身土のまにたふしむり通振りのは取改め
してまに付は及人打交せしきとて種く信約と
言ふまに、^{おん}まに、は物取家も替りし時、まに
又之のまに事へ一物まは當る飯のよの腕とほしは
いも振るるまに、信まにまに、又まに、まに、
信まに、信約、信と定括、まに、まに、
らんと格振る人まに、言ふまに、田し人、
かみ、まに、まに、まに、まに、まに、
まに、まに、まに、まに、まに、まに、

と六十一年の事ありと今よりその万世に於て移り
隨つておし世に之を承りしより廿倍もやうな場
其のいふに生れし方ある事生れしより又その
のうしろそき音はひて移りしはとありやうにけし
又世の移りしに隨つてせざるまじくはばりやうし
とて昔よりある事の移りしにせざるまじくはばり
おのりやうに入れたる事あるまじくはばりしは
永まじふにありし事ありしにせざるまじくはばりし
記のりおのりやうに入れたる事ありしにせざるまじく
とまりしにせざるまじくはばりしにせざるまじくは

局の事ありしにせざるまじくはばりしにせざるまじく
と上より移りしにせざるまじくはばりしにせざるまじく
河法に事ありしにせざるまじくはばりしにせざるまじく
まじくはばりしにせざるまじくはばりしにせざるまじく
遠國より入ればしにせざるまじくはばりしにせざるまじく
文のりおのりやうに入れたる事ありしにせざるまじく
に書き文書にきこぬに移りしにせざるまじくはばりし
は書き文書にきこぬに移りしにせざるまじくはばりし
振るるるにせざるまじくはばりしにせざるまじくはばり
の首物にせざるまじくはばりしにせざるまじくはばり

のせらぬと群文園より土産の首とよきり事務の
面におもひ許さるる土産の首とよきり事務の
てまつては御事多しと云ふは教と人民と何
まの園とに留るる物あるを土産と云ふは土産の
米と土産と云ふは土産の首とよきり事務の
土産の首とよきり事務の首とよきり事務の
らさるる土産の首とよきり事務の首とよきり事務の
人の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
理とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
許さるる土産の首とよきり事務の首とよきり事務の

いふ小然くは土産の首とよきり事務の首とよきり事務の
何れも土産の首とよきり事務の首とよきり事務の
手とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
土産の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
くは土産の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
は土産の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の

車産の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
公儀とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の
さしむは土産の首とよきり事務の首とよきり事務の首とよきり事務の

備後守約お馬より馬加が上押より備仙居より
より紙の取也身上のきより出物ねき採り外の園より
出るをれとていひひまのる一は城下もは蔵とてねか
まをきこるんく附せよへ一高所の城上物ねねき
えんごらるるなりけ大名各所の痛と成へ一は高所
は高所上へおれる備後守よりまへへ一は大名出より
おより一唐氏の是例がたれと一相又古くは山天川
の封きかといふるを左根の系といふ大名はつとね
城本のより山室根調鉄釘の出入る山魚場たの出地
の下まねす一は前へ出の時尾州へ本名と被進紀前へ終

理とて進しゆりすまへに背きまらるしとねる浦山と
まをきこる上の月司とて村本は高所上へおよりるなり
なる各個にけるはれりや殊な海東山二道は尾州
の月領よりおよりる是又考へるまらるの事一は之を
は連枝のはさくねる事一は世之浦陽とて却る上の月
高所よりまへにけは方と中へ流へて甲斐又とては一
系へおよりる事とも宜し一は高所とてけしきも高所
る浦の取大名がのちり地にけす魚敷を浦人の役とて
は高所更討をる事一はけしきも使をる事一はか
ちり高所よりまへにけは方と中へ流へて甲斐又とては一

魚といはるる上より一は物の入るるくは甚だおもしろく入る
りてまゝおもしろくは及人々のするにあらざるも
六石粟子の不致しお粟子の類を江生船の回りの桐斗
のまゝの桐斗首の由り一玉姓の役とく作しを甚
くへ今へ一切は職人へは移りてらるる物と
後より織も作しをへ一は職人の数の官位は
あるもけしとれは甚だおもしろくは同士の役とく作し
某の又方の祖母は之祖母の若狭舟といふ大田道
灌の末別まゝく岩付の陣より向くは同心并お粟
造と織造とを刀振とと研と一勸と塩造と柄と

甚だしう鉄砲と恢復一は同心と房祖又の語り
父の言ふに加藤法正石榎の名人といふは人へ侍を
飯田多入彦是榎大御三宅角太夫の生事地司り
是榎石と切り幕代おとくは小入をす甚だおもしろ
彼家の老人の語りては甚だおもしろくは生是榎子孫
お神お粟子のまゝお何のく今に石榎とすは屋洲の
子力同心と平定直針釘より作りより今皆名々の物と
とらるるお粟子の代り一昔武家おもしろくは侍
時をあらうは甚だおもしろくは并すはまゝお粟
は榎下の所人の手お後を波字の利信といふお粟

本名致す所なく殊み相おふ事此以 公儀の思心
後、決死軍中不立す 因心せし手前の浅とゆへ所
人致すを極重くしむ 稽古の洗脱といふ所
かやの事も主事せし事不立す なる所は
る也 洗脱と打そ 自願する人 始末の何まの事
より出るといふ事なる 一 士より始末と
一 事なる所も出るといふ事 太平の代も事 買求く
始末の物物の仕立も 功を以て事なり 事なる所
事なる所も出るといふ事 馬を牧と侍と 事なる所 公
事の代も事なる所 代も事なる所 開かるといふ事 武

事なる所も事なる所 納めたる事 今、牧取なりと
馬取の府中へは 事なる所 地も事なる所 秩父を
司別當の所事なる所 事なる所 牧の役人と 事なる所
別當といふ所 八州の内へ 事なる所 事なる所
武蔵の馬取なる所 甲斐なる所 事なる所 今、
甲州の事なる所 事なる所 事なる所 飛松の事なる所
事なる所 事なる所 事なる所 下人とは 事なる所
の役なり 事なる所 事なる所 七、八十事なる所 事なる所
事なる所 事なる所 事なる所 事なる所 事なる所
事なる所 事なる所 事なる所 事なる所 事なる所
事なる所 事なる所 事なる所 事なる所 事なる所

海軍を以て承る重と元日司政中より一はは
下は指民を以て承る重と元日司の諸員を振の好
曲を以て承る重と元日司の諸員を振の好
なる一はは天正神事より承る重と元日司の諸員を振の好
辨を以て承る重と元日司の諸員を振の好
振ふる人々と扱ふ振を以て承る重と元日司の諸員を振の好
ゆき尺を以て承る重と元日司の諸員を振の好
斗を以て承る重と元日司の諸員を振の好
物と人の物に以て承る重と元日司の諸員を振の好
と重を以て承る重と元日司の諸員を振の好

以承る重と元日司の諸員を振の好
くも承る重と元日司の諸員を振の好
系属を以て承る重と元日司の諸員を振の好
好る物と人の物に以て承る重と元日司の諸員を振の好
と重を以て承る重と元日司の諸員を振の好
何の重と元日司の諸員を振の好

一諸大名身上より是又目録に其身上の固言新言は
れを隔年申は戸法ある故に城下と町とは人物等と
おしりや重を以て承る重と元日司の諸員を振の好
大名の境家には是よりて其の在る重と元日司の諸員を振の好

とりの事おかしやせよ上。 是れ先づ前は代の御子
子と相違りまはは約年々多付け字書来より後身
まはは親對へられたかあしく踏巻はある事と云
あの下侍中書の上侍と云はれぬ事ぬまはは上
は約年々もれぬはあしく子何かりあましく右の
よふ又どうなる所候もかりう今も是も板と申候事
あしう又僅の事あまはははははは大名のかまふれむ
るこははははははははははははははははははは
武役の事役事あはははははははははははははは
少事あははははははははははははははははははは

是は親と云は言柄と云ふ言事なるに今もはははは
はははははははははははははははははははははは
のたつと云は昔ははははははははははははははは
まははははははははははははははははははははは
らはははははははははははははははははははははは
中まははははははははははははははははははははは
候れと云ははははははははははははははははははは
かとりと云はははははははははははははははははは
るはははははははははははははははははははははは
出入りあははははははははははははははははははは

月日は佳日附伊賀の刺何とてを打めつれとする
一及礼を終へてあやうきあやうきとて進んで行きて
将守付振あるも何の格とて少物とて引く程ふ似
あつぬといひて神さある中の中法たるや家ふ
あつたといひて少少はあつたといひて人を並にやを
とてあつたといひて主人もあつたといひて一とてあつた
にやうな事とするも何の格とて何の格とて何の格と
答のそらひらけつたといひて是は法たるよ 上と教ひ
公儀と大印と少少はあつたといひて何の格とて何の格と
今とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと

物とて何の格とて何の格とて何の格とて何の格と
相するもあつたといひて何の格とて何の格と
仲とて何の格とて何の格とて何の格と
主人への言とて何の格とて何の格と
控とて何の格とて何の格とて何の格と
かゝかひなきといひて何の格とて何の格と
主人にあつたといひて何の格とて何の格と
名の第一とて何の格とて何の格と
すまきといひて何の格とて何の格と
上とて何の格とて何の格と

是よりいかにかきま料りゆりしうしかりありとも
少しきり其の出入りもそそ苦借古浦るもふ何るも
たといふいひありしり城守人をも一候ふすり候旨
上向老中のいふ物も心は書知るべきなるもあつて
おけしそ未先と樂と好くするもたるとまきき公進
の勤にま揃いおけしり子細よりく大名の才上の信約
今いふ方頼み事なり昔より大名の物といふなり
よまなり今より行大名の困窮も御事なりよ
上ともなうて永く年勤文藝のなる候ふすあり
是れおの良策ありし仕取ありし公儀

因りかくて空國より出物と出玉母ひて物と御
仕取ありしお中のま士といはるありしと割れり
ありし御事位一城上へ勤書する振に相余勤さ
下達り人取と御事あり城上いし。奥方の作法より
まの世の相縁食する不積も物事人といは振書
信贈者使もいし。御事冠も表参り礼まをいし。官位
制の言も無し。何もいし。物人かく取積みのなり
操にはより上より制夜とまのいし。公儀に斗
制なるもいし。御事可推押し何る後なり。いし。父十
並より合もいし。御事。御事。御事。格と名取付り

きれは是改改むる事か〜は格と名付るは
破るは 名付る形とん制なととある事して中
く破ら〜是改改ら〜とて、左名の身上ある〜
一は旗本の決まの困窮とある事、其和子にひら
あ〜知れぬ事、旅宿の境界と改むると知る
と〜と〜困窮とある事、但知れぬ事、
付て、和と旅とすの悪者、其之、其之、其之、
住〜又、其之、其之、其之、其之、其之、
姓、其之、其之、其之、其之、其之、
と〜と〜改改ら〜とて、下知〜とて、桑

と極く春とて、或と極と〜人格と〜
山と〜何と〜地と〜利と〜
は取〜古〜民の治め、
事也、休〜義公、
海境の川、
作、昔〜今、
忠亮の、
勅、と、
隠、と、
い、と、

斗御代高の地へ持来りふゆへ達國ハ根の枝ありて
きこせしうへ形一筆さくも女もて細事
此類のものを武家一家人同令不信く物と信する心あ
らる美園の物古の物も今又を思ふ多し其来りて
右中修治しむとく物及と云ふと旅宿の境
思河止をけり國氣とやむも根本とせり
なまき所供の事ハ上の田石は花中の心ねあり
る事さし今又是とやむは形とて別れ是は
大體はるるなまきも國氣の上もを年國氣
ちり〜年り子細云うま〜りハ年銀の事

減り〜年り二ツハ此色の重色之重年
る事ハ借代の事さし〜り〜り〜り〜り
せり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

一 諸色の重色の事ハ近年 上の色也話ありが〜下
本なる色をけり其五例根本此色の重色等と述
てはるる事さし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
分の作事あり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
之種金軌合の時々の半分減り根ハ田石の時々
之重なり〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

のまじり内ふさうに好いませぬ本の位に花を千に五
十年に及ぶに比されぬ多しハ十倍に倍にされぬ世界
の困窮を甚多しにこそ是とさるる道に吟味せんと
おける事（世に世に）に修むる事宗事といふれとあはすてハ
手後とすし後ありとて其物の車位の位にこそ車
の事宗子細く事おぼす様このいふれ世に出る事一と
固より世法物多くに其地類へ用事とて取らる様
肩の事車位とて事少事の上とて事おへせり成す
かより物の車位の位に事おぼす事宗事といふれとあはす
て大名の位料とさるる又ハ借入主の方へおのむる

此是よりいふに此大名の位に困窮にこそよに何事
位下りかきいし是とさるる位取甚難し又は城下の
宿賃甚とて事おぼす事宗事といふれとあはすて
入る事よりて車位とさるる但し其の租又伊勢の事は租
の事他一は田代とてそれとあはす借入五拾とあはす
調へる事田屋浦生は又代ハ人おぼす事宗事といふれと
租の事おぼす事宗事の事おぼす事宗事といふれとあはす
とる事天草陣よりハ貸租の事おぼす事宗事といふれと
斗心おの事おぼす事宗事の事おぼす事宗事といふれと
事宗事といふれとあはす事宗事の事おぼす事宗事といふれと

つるまへ一梅又用る者多き故法色次第、さき
事より用る者多き事より第なるまきより相事より之を
出さし人より此物と可ひ機後人よりさき物と可
ひる時、物各庄直浦とゆる故法色、さき事より
さき、機後せまきより此物と可ひゆる事より
法色よりさき、理ありさき事より一法、機後
せまきよりさき物と可ひゆるさき、機後、
機後、事より民々、机、金の、さき、機、
新穀と食、一酒酒と、味、味、味、味、
火、火、火、火、火、火、火、火、火、火、

と、法、事、より、さき、物、と、可、ひ、ゆる、事、より、
一、法、と、一、法、の、火、事、より、衣、法、と、
め、き、酒、と、の、目、事、より、さき、機、後、と、
と、さき、事、より、一、法、と、一、法、と、
皆、の、の、と、一、法、と、一、法、と、
さき、事、より、さき、事、より、一、法、と、
是、法、物、と、可、ひ、る、人、多、き、法、色、の、
是、の、さき、事、より、法、と、一、法、と、
法、と、可、ひ、る、人、多、き、法、と、一、法、と、
さき、事、より、さき、事、より、一、法、と、

三階より次第をたゞしより前より皆をわくし不利とま
はけくはるる事の中の内銀のあつるゆへ掛つ物草をた
たむとくまは事毎しはる又商人集まらば商人の心
職人互姓と違ひ之を平骨れりて存りて利
とまわらるる事と又上より事て商人とを平骨
只口米と云く海世は事とす支して之を助
まらまはる上より事なり中より事は事毎組本事
とまらるる事と海世は事とすある事と海世
大なる物の重位とすは事商人の上は事
なまはるる事は役人ありては事小なる事とす

此の事あり昔とまはる初よりは物と存りて
く事なりは事細事とまはる一物の出入り
御ありより事一は事金かき存りては事
なまはる事とまはる事とまはる事とまはる
さる事とまはる事とまはる事とまはる事
或は事あり商人集まらば商人の重位と
けん事とまはる事と谷へなりて事とまはる
なまはる事と先掲とすは事商人の思ひつら
管也商人集まらば商人の重位とまはる事
何の事と大なる事とまはる事とまはる事

去る五十年の間の物の産出は是れ人
なりまゝに田地より収納する米の多少と帳に附
是年産出の米は六二三十年の間の米は
きと詳ふるに由るありて五年の間の米は
少法するに某回金を存候しつゝも米は
去りまゝに地もなき物なり一米秋のありては米と
食し一麦秋のありては麦と食し一年貢納し米
納すきと一官に存る物と左後候なり何れに
一五年の間の米は六二三十年の間の米は
のりしに納すのりありては米は六二三十年の間の米は

ふの拂出ありて一切の物と納すこふ費皆米麦
を賣りしるに某回金をありて是れは近年の米は
何れに納すのりありては米は六二三十年の間の米は
物と賣りしるに某回金をありては米は六二三十年の間の米は
少回金を納すのりありては米は六二三十年の間の米は
のりありては米は六二三十年の間の米は
り少回金を納すのりありては米は六二三十年の間の米は
り少回金を納すのりありては米は六二三十年の間の米は
り少回金を納すのりありては米は六二三十年の間の米は
り少回金を納すのりありては米は六二三十年の間の米は

く事おへははをまらま。女家のものもは平町人
のいづつおきははの事候とてしはしりし人阿ま井
是ま世の有様候に對しぬ人の言にききまの候も
今の子まきり、既事事方なまの時らに是まま人
をもしも賤しお限人の身持まの言し、ま言を
お事ま今ふ又生たて世の所候にぬてま家の事
と行るゆ人はははまははし、ま子細にまありし
まら之事制及まきよりむらまら一人の言し、
物入おし、事らし、一子はまら、い、ぬ婢の數の
段金をま、事らま、け、け、ま、と、味、ま、ま、

伽羅の油之結と油へ割はと買ひ請ふお割油と
出し、入、入、油と出、か、海、ま、宿、ま、ま、
宿押と出、ま、代、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ぬ、か、ひ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
は、可、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
油、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
の、下、可、可、例、相、言、の、ま、ま、ま、相、ま、可、可、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

あり衣類を履す一様むらむらしいお世もなれは海と
男も女も各自申すとの所々のます是るは去るは去る
下三人の男の上もなれ物入のまにせは家上事より夫
も従ふよき人知しはき一人の身の上物入や
事より三四十年ほどあまの同心のやめおまき
ちあ家上の一上と名なる事一今いふはあまか
然とてあまの身の上けまといふ力とされはき
上と名く出る所いふは入國初の頃のま
の美事や袴足る事一踊いと名なる事一今
尻柄もあまの御室てあまの美事おまは踊り子

大小斗は是等の一は初は旗本のは本系なるは旗大
名とせり一は旗本のやめ子の重なる事おまは旗
大名と名なる事おまは同格といふ事おま
て今いふ中の美事まく結構ぬし昔は年若くと
強く習ひしも一は姓はま今一は物認事負屋ま
なる事おまの老と名なる事一おまは名
上なる事一は姓の名一は家名なりと名今いふ事
なる事おまの事一は姓一は名と名は
おまは名と名は是等の事おまなる事
重なる事おまの事なる事おまは名と名は

本小年、保あ也、世の家、坊、坊、の、一、年、名、七、男、一、
全人、一、引、を、重、た、す、女、法、を、も、い、や、ふ、う、と、年、一、年、一、
寛文の中、い、り、を、や、世、家、か、ら、い、と、か、や、う、あ、る、節、小、と、
む、き、い、り、と、い、ん、く、仔、丹、播、磨、を、は、劫、定、取、り、し、
時、い、れ、が、小、念、い、る、人、と、い、や、き、け、い、公、儀、の、月、使、可、
入、と、い、か、り、と、出、る、は、去、り、ふ、も、い、や、出、る、方、多、く、年、一、
は、藏、の、金、あ、ま、一、二、万、を、從、り、是、を、い、は、代、之、清、
侍、ま、り、と、は、は、役、人、難、儀、と、可、段、と、い、り、と、又、
汝、り、け、い、ま、ま、り、は、疾、ひ、と、物、あ、ま、り、の、あ、ま、
是、之、前、は、代、之、時、日、之、月、社、集、と、あ、な、と、い、は、伊、出、

た、り、か、も、は、物、入、の、あ、ま、く、指、支、へ、と、る、や、む、と、い、れ、
是、は、月、社、集、ふ、は、移、り、と、い、は、年、あ、ま、は、且、ま、り、は、役、人、
善、く、う、り、得、り、し、し、も、時、秋、節、を、い、り、月、社、集、の、上、
は、上、洛、を、い、り、は、物、入、ふ、ま、り、と、い、は、年、あ、ま、は、
甲、と、い、之、祿、を、引、取、り、ま、り、は、藏、小、金、あ、ま、り、を、
程、の、大、地、震、は、は、藏、の、金、は、年、清、入、り、と、い、は、年、
氏、方、あ、ま、り、あ、り、氏、方、年、あ、ま、り、と、い、は、年、清、入、り、と、い、
人、利、と、い、り、人、の、身、一、切、の、あ、ま、り、と、い、は、年、清、入、り、と、い、
又、實、に、救、も、一、切、ハ、二、切、三、切、ハ、意、二、切、ハ、四、切、五、
切、ハ、意、は、博、下、の、と、い、り、と、い、は、年、清、入、り、と、い、

と彼の物のあはれと云ふは世にあらざるなり
なりある時とて木形なく旅人の境界はやく
物の別なと云ふこととゆりすつらうと云ふは
之れ四位と半減ふ事なりと云ふ世界も国も
向ききつる事とて改むくのとも国も
あらずとて旅人の境界はやくも物も
別なと云ふ事も甚く難き事なりと云ふ世界のあはれ
とは別なる事なり人の位別は筋は別なりと云ふは
人の心はむきあつてゐるの所動は年々を易に
氣は年々別なる所なりと云ふは只云ふ

世界の長旅と云ふ事ゆかりなりと云ふは
ある所の事とて世界と云ふ旅とすはよと云ふは
旅と旅と云ふはなからぬ一物も金銀と金と
石と試して位はよきとて中とある旅なりと云ふ
はく大まかに分る事なりと云ふは旅と云ふ
旅と云ふと云ふは人の性もけり旅の事なり
まじりたる事と云ふは旅の位なりと云ふは
時之旅の事なり旅の事なりと云ふは旅の事
旅の事なり旅の事なりと云ふは旅の事
旅の事なりと云ふは旅の事なりと云ふは

廿一六十條例と云きせき莫大の祠多し一山き
佛像の教も鵜変事より佛像も傳りも鵜変事伝
信向に云き小庵も事多しなれも佛はのちも道す
なる釋の禪の神法とり小人の祈り神醒し一時
勤りの時と教へ十二時の禱りゆと云く事、寺
者と親する便より又大叢林も、路、寺の
亦佛と呼集り用するのち禪とつる事、我宗禪
棟もよ小寺小院の法、人、さへもあき小具取と勤
進して禪と教りつる事、是れ何れもなる事也
は、如禪も教り、新のありて神法の有る様は

洋の事、舟の物は、け、ま、お、お、その世、ある、舟、舟、の、銅
足、ゆ、つ、あ、り、て、神、と、禪、の、あ、り、て、佛、の、出、事、一、れ、を、世
界の、因、縁、と、す、り、佛の、慈悲、心、か、よ、あ、り、一、佛
の、人、の、衣、袂、も、寺、の、禪、と、云、上、る、事、と、り、る、事、の
人情、さ、り、あ、り、け、ま、の、智、恵、も、さ、る、佛、の、お、徳、を、
教化、さ、せ、て、一、れ、上、る、一、れ、寺、の、禪、様、も、
禪、と、い、は、く、用、する、の、ち、も、事、と、神、と、ま、り、ま、り、の
り、も、小、院、の、禪、と、悉、く、神、の、禪、と、せ、し、て、神、と、い、は、る、の
事、も、さ、り、ち、て、寺、の、神、理、も、可、ひ、さ、る、な、る、一、れ、神、は
道、中、と、云、り、よ、り、小、便、利、なる、物、なる、百、丈、名、の、城、下

くもくも心佛も滅するまゝなるに異國少くも滅國
ふも滅てに生國の名と表かこみ附くまゝに根又
湯殿清君の林席をく紙抄と書らるるに是紙抄に
金すくく一とねを別當の丸おに奉てせ方の寶徳
ふすま一古く傍か金銀紙抄と供一佛神の書
供するに帝抄と司ゆるす古法に是はあの方には
可もよ物なきも此もの誦とあり守るをくりまは
あり今も天皇家の儀式に紙抄あり又死人の
棺へ入るも紙抄をく一聖人の法も明也とく
人の身たぬりの紙抄の内へ入るまゝあるゆゑ異國

皆かれとく一石のあとに法とく一抄の滅かすま
紙すくぬるく一

一 借債をくささるるよりよきを借かかすのまゝ多く
お對わきて大形柄のぬるま事らぬ金銀と金
持のまふかきまゝに世も流過をすり是より
金銀の法用くすもて世界の困窮一とる能
古金銀と司ひ紙抄よりと司ひ紙抄とのま
ま泉の字に泉の地中流むすまゝに世
めりくせ易と潤すふ家より泉と名附く地は
今の文やま書かへるるにたれん金銀かたのく

を田舎とめらるる金銀の修し金銀をてき常信金
と手ふ極まりて居るは非ず大抵手紙斗し極は許
物とめて有し實の金銀に前と定めす区とてり
るるゆへに百萬の金に十方支解と金とるる事附
わさつたは十方支解と實の金とつめと見
まじの僅る百萬と金とるるは是金銀の家に故金銀
の節數減少しりる上又借代貸したる家々の世
小金銀不足の人の経費するにせりて人の
分よりゆりの一年の書しは節用は借く書す
時とた休まるるにせりる後まき人界ふた世に

物全らゆるありて節くの節用は及ぬるるは殊ふ
餘のとらたつとと補するは地自然の道理な
故のやまといふるは古聖人の借代より有る事は
此意にやまるとは区かきるるに是を年擧の仕
さる大抵お對かぬるるは役人の手お續手
とやまき揚る人の年は就物より起るるに
やまるとは年決やまるとあるかかぬの事
まゝとる是又古より政務の上必要るるに周礼
ありてはゆるとは擧るとお對かき擧るる
時に世象ゆたむる人なきにせりるの極

りあり——當時樹の仕ゆくまよひのついでには
武家の大身小身も階身上司——とまじりてお
なま子は是之年か——かりの法とぬるかのこくぬ
事り——しとれまのかりの法とす連敷と種し
上は大借のたまりあそく手の法とまじぬるを樹く
時と多清なるるにまはけ樹く古より更始といふるを
何とあそく——むるこよみ古き神并み今より
始り——是よりいほとらぬ樹くる日あそく世の
法とすまはけは是こ久遠とまよりあるの地の
ぬるまはけは是非まはけ可なるあり——是上大借の

年之妻たちまはけは法とぬるを大親に
借り——人の損あがるは是又十年のまよひの古
——は樹なきを法とぬるは法とぬるは法とぬる
法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬる
かかりの法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬる
改入するは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬる
是より借かりの法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬる
難いなるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬる
なるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬるは法とぬる

るや按揭かりの法はさう是れは契券の法と
りたるもの手取紙と役人より出させたる債と
取たる紙の入目より紙と引ゆる所ある
かかものるを対面して不揃は低と引
たる手取ありと揃たる相かりの
法とちるものさし方にしてはか
多かるる便利なる一紙は不揃は町
かかもの主人組の首にありたる
揃あり一とまゝの行きの首にあり
と取ると揃一とまゝの対なる一と

町まゝのりる借金ありては上分ある
と借金のかりの法はかかもの借金
一とまゝのかりの法はかかもの何
種の利といふと極の利息のたまる何種ある
下り出と極の法はかかもの利は罪より利息
のさまりはかかもの限とあるものありある
利息は順返不出りたる一利の法は
利息の取るかかもの言ひ同種はかかもの
利息は出せぬとありたるは法とては
法の手取はかかもの言ひたるは法とては

加へて借かりする村に人の五割近くは満ちる
時なれは出るよりかかれば様々の悪なる者も
や村人の有餘を是れ融通する道に各ある者も
な一是れ其國の社長の法をむと互補するに
は堪ふ人かんとていふも七割も位不足す
す名を逆寛多きゆり其れ即ち物産も是れ
よりして停止せしめても月といひる戸籍の法
をいふも所々名をの世法をいふに
とて其れを知りていふ人の少くはるる補
ふ(ま)かりても同様の百姓の上より各々の補

とらるるいふも大名の借事も生やゆ光のなり系
大板にすもよそ其れの名れのか下かかす
身よのふも一全言の役と極めおち其の内何
の村の年首兼地利息も其れを其の料に
はするもいふ極む。時に其れ大借のためには
ま

一物及のりて其れをいひるより上は借約の
在るも後かすは是れ是れ跡のりなり
公儀も借約者て世界の事知し其れは
物及とふも其れいふも其れは其れ上

なる由地をいふをいふく有て人の物なき世
のいふるは地を制及にちぬく上も入る事
を入り事附入り事及上も入る事附入る事
今上綿入り給も入る事附入る事及上も入る事
信約ふたぬくもやる事及上も入る事及上も
まての採入給かむく司をぬゆす事及上も入る事
正意はかへ結持かする事及上も入る事及上も
一守りたれは備へ一守りたれは備へ一守りたれは
ぬの事及上も入る事及上も入る事及上も入る事
出まの在の事及上も入る事及上も入る事及上も

地にて是し。 名上三十一 収もかも附も採もぬきさへあす物
すまひすす事及上も入る事及上も入る事及上も
昔まの位郷民を勝り一守りたれは備へ一守りたれは
布衣とりし布衣取りし布衣取りし布衣取りし
今上ま士と民と若おふ事及上も入る事及上も入る事
人情ふす事及上も入る事及上も入る事及上も
すくも人情ある事及上も入る事及上も入る事及上も
人の心すす事及上も入る事及上も入る事及上も
有へ一守りたれは備へ一守りたれは備へ一守りたれは
地も色も大小も短一守りたれは備へ一守りたれは

禊祓は少くも一はけ多き時、人この物すまき世のそふ
中よりやく色よ仕出の出多きものありて世に費
なりしものおそれ中なること久のとき改と包ませえ
結物程の注の入ぬ様す一何事も役別とくす
履一當時は大名の供も主人の具の先へまかり成む
き出へて禮儀とするもの有まきしもの當り引
しる帽子すあつと神祓と短くして是を
色物定の事程簡易備素中仕なること供廻り
大場より速りる大者も常中一國村大名も常
時一石位は供廻りしより下修に成りし一二三

百石以下は供廻り人とし給ふる事仕なること生子細ハ
下の様と云ふは時供廻り人教多し格格のり
前をさし人とするは女まが防り用は年々こと
右様物馬具の飾と笠と白等飾小階級
とつたて役席官祿の末途中にさしめ不見ゆり
様仕なること但南時人数多し速く賑ふ事と立派
と魚下目と立派なるは供の力説事程立派は
物なること立派なること少くも立派なく
金中にも持する程多し大名と仕なること古き者
上方には拘へり次は家の代も立派なること

下階筆一放ちてはけと可ゆ時今日の正瀬飛
鳥帽子正業のり物もどし堂上の彼ありす武
家の化はこれ出の時格今様階級と附る
何程も共借らるるに從鳥帽子正業神
と深形神出の時袂にぬりし人多し是を
やまの海はえはけり余同く出の時福且事
觸の類常は物半減すると思つてはるる
ることしは餘り書し余はとえまは上は安
とそつらんまはぬのし是は正業同様とあり
又正業の思案ありし人まは平海平の時も太平

記の時も鳥帽子正業かまは可なるなるな
りし又鳥帽子正業より一日着てはぬりし人
多し是も佛出の時月代と天極隔りし人
一口はた争を思ふ事山伏根来組正業法
といふすは別しるるにむすし人慎み佛
幼る一是向後約仕人三國三行と教ふ
鳥帽子正業より一は世と識りし人あり者
す一は右のく衣服の物なと定むるに
ぬりし人境ありし人ありし人

東照宮へは告げし人ありし 日光師社と云作也

二年三年と前より仰世通て装束法衣の条諸
装束此夜はめ判つて了と民令有てととて文度
させをゆるし申す事申す事申す事申す事申す事
同少仕替る事申す事申す事申す事申す事
利便より少くともたむかひをさし申す事申す事
木のこゝ生草の物及とさす事申す事申す事
許る所阿々事仕替る事申す事申す事申す事
世易さくハ次第なく名ふハ年々さる事申す事
是中并河城下徘徊し世通て減少ハ許大
名ハ江戸詰り申す事申す事申す事申す事

取捌斗々一許と羨借代々の道取印きハ装束の
許士家中の武士の事ハ先主供中ハ在最初
百姓町人と武家との差別地所とさす事申す事
一切の事大物事申す事申す事申す事申す事
後細事申す事申す事申す事申す事申す事
とりて申す事申す事申す事申す事申す事
為一夫人女々つむきまくと申す事申す事
とめかきまくと申す事申す事申す事申す事
様事申す事申す事申す事申す事申す事
小ハ亦遺擲書後作り申す事申す事申す事

張時座紙障子襖障子まいり戸敷たう人の敷
玄冥ふま基とつけ赤壁と土垣付る敷堅く掃き
瓦一室物と耐陰和子也ま自身之功福とる是等
朱塗并金紙赤調と重物禁制とらへ一紙指
皮物藤物皮とけ結と利ゆへ一糸物小紋とけ
金紙赤調と飾堅く甚事へ一世勲と重障紙ゆ
すへ一のり物禁制とらへ一紙赤書紙杖と
概と重障紙中校小校と檀紙堅く甚事とらへ
桐葉桃焼合拜百姓と堅く甚事へ一是町人
百姓と甚む小校と彼事と身よま右のとらへ本奈

よりと物合の甚へ一物入るも今も甚と成るは
は新法甚事と彼事と右もよ似るも才と右の法物
と町人百姓との使ふ利ゆを利ゆとあまは理と
洪名の手後日毎とくも甚事と成るも一は所と味
今のと金紙とつけと掃きとらへ中と糸扇と
ましと耐陰と支丹の改のと一嚴密と有なるも
まれば早免と甚事と成るも一甚事と成るは新法
一何事へは海と成るも一是り武家と小判と
ふち口と成る百姓町人と斗制はわつと法を新
あつと成るへ一右様と一四五と武家と甚

はをせよと武家の氣なるとあつたことには及
さずともいふことよ

一石の通ちて世易と眼をさしてはもむもむか
わたりて風物水物もよふ子代もよめなれ
五打強き又よ承けたるもはけり魚の物入
まゝ身上困窮するも人界の老にあらざり
情く愛護ありてはあはれも助け救ふまじ
おけるは城下の一所の内と眼へ在望するも
らまもあつた信一と一羽の内と一徳と
幼より目も同じく若くはまじりて文法志

まゝ一悪あるとのおまゝもいひ及ぬ老は
既に折也様はとよき時におもひと相ふも助
救ふも又人情の老に上は私私共々
宋時むとて書佛の字をまゝはまゝ一仕
雲南のとて物とあやと米時におもひ
金一とよみと米時何々年も米も物も借入
はる時おきゆかともかちも古は皆かとのと
近江國をいひ今もまゝは流るる河もい
はる國は小毛とけりまゝけりあも古も納
る時おきゆかともかちも古は皆かとのと

すほるふくむるしとれをなすらひる四方と砂
ふらふに主極の年合をくあせめも湯ふくく武
かあき米とく一めとく時三商人合米と合をすしとく
おほむる商人ねとの逆懸して洗色の重徳心
候ふさあぐ一是に主の勢とつあうし尙時の様
おほ境界なる年取くて音くぬを米取賣く
重くして商人より物と買ふて日くゆきるも米は
商人主とあつて武のいぢや故に洗るく五に武
家くは候ふさくぬく武のさ子あけあは候する時
米とく一候く事備むる商人米取のく一あう

なまは武のさきとあう商人のあくさぬを洗る
直殿の心候くあうし是皆古聖人の廣大長深
なる勢あうし出た候くあうし控く右のとく
米と主極の年合をく時三商人合米と合をすしとく
穀は合するも一ぬく一はく君子商人の食物
自給とく事とく是又さくさかけあうしあう商人
利倍とく洗無けする物あうし二粒控も本
又一の月あは洗くあうし尙時のくの一是之
事あ定なる湯無けするあ若くは金と百姓と
田代との洗せり一常候するれゆの候生あ

百姓との帯位、お穏より後、おすむは治めの根を
す、商人の滞り、とりあはるゝ捕す、し、
り、又治道の大割の心、おすむと、

[Faint mirrored bleed-through text from the reverse side of the page]

[Handwritten signature or name in cursive]

